

WCBF 世界少年野球大会

世界との親交を深める野球大会

1990年にアメリカで始まり、今年で19回を迎える世界少年野球大会。日米のホームラン王である王貞治氏とハンク・アーロン氏が提唱し、「正しい野球を全世界に普及、発展させるとともに世界の少年少女に友情と親善の輪を広げる」ための大会だ。「心をつなごう あいちで世界とキヤッチボール」をテーマに7月30日、愛知県名古屋市長権公園野球場で開会された。

世界20か国、274人の子供たちが集まり、元気よく行進し始まった開会式。大会を主催する世界少年野球推進財団、王貞治理事長も会場を訪れ、子供たちに「野球を通じて素晴らしい思い出を作ってください」と呼びかけた。



▲参加した子どもたちに声援を送るWCBF理事長の王貞治氏

野球の基礎を 遊び感覚で学ぶ

交流試合と同じ時期に開催された野球教室は熱田神宮公園野球場と球技場で行われた。国際野球連盟（IBAF）の選任コーチが講師を務め、世界16か国の10～11歳の少年少女が8グループに分かれて野球の楽しさ・基礎を学んだ。教室の初日は、野球の道具を触ることから始め、特別に作られた64gの小さくて軽いボール、短めのバットやグローブなど、この大会用に作られた新しい道具で子どもたちはボールの投げ方、受け取り方、打ち方など野球の基礎を練習した。



◀▲子どもたちに丁寧に指導するIBAF選任コーチ

大会に参加して…

大会に参加した子どもたちは「言葉が通じなくても大丈夫」と元気よく話をしてくれた。今年、参加した子どもたちはみんな明るく、ホームシックにかかる子どももほとんどいなかったという。イタリアチームと国

際交流試合をした六田ファイターズの監督と小学6年生の投手は「初めての体験でとても楽しく野球ができた」と話をしてくれた。9日間に渡り開催された世界少年野球大会は、子どもたちはもちろん、大会に携わった者全員に野球と国際交流の素晴らしさを教え、幕を閉じた。



開会式



野球教室に参加する16か国の少年少女と、国際交流試合に参加する海外4チーム、名古屋市内の4チーム、総勢274人の子どもたちが元気よく入場した

交流会

7月31日に東海市市民体育館にて開催された交流会には、野球大会参加者や地元小学生など300人を超す参加者が集まった。日本ど真



ん中まつり出演の「名和つ子猩猩」による演舞鑑賞と鳴子を手に踊る体験、「嚶鳴座」による和太鼓の演奏鑑賞や体験、全員が輪になり盛り

上がった盆踊りなど、海外から招待選手たちが日本の文化に触れることができるプログラムが組まれ、笑顔の絶えない交流会となった



山車を肩に担ぐ少年たち

交流行事の詳細

山車披露・体験と祭囃子演奏（横須賀まつり保存会）、和太鼓演奏・体験（嚶鳴座）、盆踊り体験（国際交流協会）、郷土芸能披露（こども御殿万歳）、よさこい踊り（名和つ子猩猩）※プログラム順

グッドウィルパーティ



大会期間の終了目前にあたる8月3日に「アイリス愛知」で行われたパーティーは、大会期間を通じて交流を深めた参加者たちが、それぞれの国の伝統的な歌や踊りなどを披露し、各国間の友好をより深くした。会場はパフォーマンスごとに大歓声が起こり、とても盛り上がったパーティとなった。

国際交流試合

7月30日、瑞穂公園野球場で第19回世界少年野球大会愛知・名古屋大会実行委員会会長 村田兆治さんの始球式で始まった国際交流試合。参加チームはオーストラリア、カナダ、イタリア、台湾の海外4か国・地域、開催市の20チーム総勢360名。試合ルールは全試合5回戦、60分を超えて新イニングには入らないWCBFのルールで開催された。

開催要項

- 主催 財団法人 世界少年野球推進財団、愛知県、開催市等（WCBF：WORLD CHILDREN'S BASEBALL FOUNDATION）
- 開催期間 平成20年7月28日～8月5日
- 開催会場
 - 開会式：瑞穂公園野球場
 - 閉会式：熱田神宮公園野球場
- 開催地：名古屋市、一宮市、豊田市、東海市
- 宿泊地：愛知県美浜少年自然の家



ブラジル愛知県人会 創立50周年記念事業

50年と100年、節目の年にブラジルを訪問

8月上旬、神田真秋知事はブラジル愛知県人会創立50周年記念式典・アルゼンチン愛知県人会総会に出席等のため、ブラジル連邦共和国とアルゼンチン共和国へ渡航した。

愛知県を代表して副議長、県議会海外調査団等とともに式典に参加した神田真秋知事は、「今年は移民100周年という大きな節目であり、今年の6月には皇太子殿下も訪問されています。この100年間で亡くなった方、活躍中の方、それぞれ

苦労や大変な経験をされたことは想像にあまりあるが、今、みなさんの活躍を見て誇りに思います」と祝辞を述べた。

ブラジル訪問中は、アレンカール副大統領や外務省のジャグアリベ第二政務副次官、マイア在外ブラジル人社会担当副次官との懇談や、数多くの公務を行い、日本・愛知とブラジルの友好をより強く深いものとした。また、アルゼンチン愛知県人会との交流も深めた。



▲現地時間の8月10日午前10時より、サンパウロ市内にある愛知県人会館にて開催された、愛知県人会創立50周年記念式典の様子。県人会会長の豊田瑠美氏の挨拶や、歴代会長の活躍の紹介、来賓祝辞などのプログラムが執り行われた。参加者は約500人で、記念品の贈呈などもあった



式典中のアトラクション▶

日本人ブラジル移住100周年

AICHI 2008 日本ブラジル交流年記念事業
「愛知ブラジル交流フェスタ」



▲ダンスを披露する石浜西小学校の児童



▲ブラジル料理の屋台販売も実施され、多くの人がその味を楽しんだ

今年はブラジル交流記念イヤー

日本人が初めてブラジルへ移住してから100年目にあたる今年には「日本ブラジル交流年」とされ、全国各地でもさまざまなイベントが開催されている。なかでも愛知県は、日本一ブラジル人が多い県として、交流年を祝い、さらにブラジルとの友好と多文化共生を進めるため、6月3日に「AICHI 2008 日本ブラジル交流年記念事業実行委員会」を設立し、事業計画を決定した。

最初の事業計画として「愛知ブラジル交流フェスタ」が企画され、9月14日に名古屋市中区の久屋広場・エンゼル広場に開催された。



小中学生がダンスを発表したり、ブラジルの伝統的な格闘技「カポエイラ」の披露、日本人とブラジル人が一緒に学ぶ東浦町立石浜西小学校児童による歌や踊りの披露など多彩なイベントが繰り広げられた。

国境のない音楽を通じて感じる一体感

午後3時から開催された交流コンサートには、整理券を求めて朝早くから多くの人が訪れ、開始前には会場に入りきれないほどの人が集まった。最初に演奏したGANGA ZUMBAの楽曲で会場は急激にヒートアップし、ジルベルト・ジル氏の演奏時には観客のテンションも最高潮に高まり、演奏者や観客、そして会場すべてが一体となった。



ブラジル音楽界のトップを40年以上キープし、ブラジル前文化大臣のベルト・ジル氏と、「島唄」でおなじみの宮沢和史氏率いるGANGAZUMBAの交流コンサートは、多くの人が訪れ盛り上がった

AICHI 2008 日本ブラジル交流年記念事業

「愛知ブラジル交流フェスタ」事業

- 2008年9月14日
- 久屋広場・エンゼル広場

「愛知ブラジル」学生フットサル交流大会」事業

- 2008年10月12日
- 大洋薬品オーシャンアリーナ他

「愛知ブラジル」学生フットサル教室」豊橋」事業

- 2008年10月19日
- 豊橋フットサルクラブ

主催／AICHI 2008 日本ブラジル交流年記念事業実行委員会(会長：神田知事)



上記事業は、外務省の「日本ブラジル交流年事業」に認定された事業です

ブラジル日本文化福祉協会へ図書を寄贈

ブラジル訪問中の神田真秋知事は、8月11日に同国サンパウロ市内にあるブラジル日本文化福祉協会を訪

れ、上原幸啓会長に寄贈図書目録を直接手渡した。



▲ブラジル日本文化福祉協会の上原幸啓会長に図書目録を手渡す神田真秋知事

これはブラジル日本文化福祉協会へ約3000冊の図書を寄贈するというもので、愛知県の地域情報や日本文化に関する書籍などを通じて、愛知県への理解を深め、両国の交流に役立ててもらおうという願いが込められている。本年度中には実際の本が協会へ寄贈されることとなる。



▲マイア在外ブラジル人社会担当副次官(右から二人目)との懇談風景

アレンカール副大統領との懇談にて、愛知とブラジルの友好のメッセージを刻んだ盾を進呈した



愛知県の基礎データ

県庁所在地

名古屋市

行政区分

35市24町2村



県の花

カキツバタ
(昭和29年選定)



県の木

ハナノキ
(昭和41年選定)



県の鳥

コノハズク
(昭和40年選定)



県の魚

クルマエビ
(平成2年選定)

愛知県の面積

5,162.69km²

愛知県の人口

7,396,168人

※出所：平成19年10月1日現在、愛知県土地水資源課

※平成20年9月1日現在、愛知県人口動向調査結果より

これが愛知の底力 あいちの「日本一」 を大公開します！

あいちの魅力のひとつ、それは「日本一」がたくさんあること。
今まで知らなかった、あいちの底力ををご紹介します。

■本誌掲載記事に関する場所を地図上に番号表記しました

- ① 伝統と進化(究極のせとものブランド)P3・4
- ② 伝統と進化(常滑焼フローライフ) P4
- ③ 研究と創造(アイリスナガラ)(愛知108号)P5・6
景観資源で紹介した市町村(オレンジ)P8
- ④ COP10(名古屋国際会議場) P9
- ⑤ あいちトリエンナーレ2010 P10
- ⑥ 知の拠点 P11
- ⑦ アイデアのひろば P12
世界少年野球大会の開催地等市町村(緑色) P13・14

工業

■資料：経済産業省「平成19年工業統計速報」
(従業員4人以上の事業所)

製造品出荷額等

31年連続全国1位

全国シェア 14.1%

47兆4,000億円

■資料：経済産業省「平成18年工業統計」

普通乗用車

全国シェア 56.3%

産業用ロボット

全国シェア 20.3%

繊維工業

全国シェア 14.2%

窯業・土石製品製造業

全国シェア 10.6%

■資料：中部経済産業局調べ(平成18年)

航空機生産(岐阜県を含む)

全国シェア 52.6%

農業

水産業

■資料：農林水産省
「平成18年生産農業所得統計」
「平成18年海面漁業生産統計調査」

全国有数の農業県

きく

全国シェア 32.2%

洋ラン(鉢)

全国シェア 24.3%

とらふぐ

全国シェア 13.6%

うずら卵

全国シェア 68.6%

ふぎ

全国シェア 41.3%

ばら

全国シェア 14.3%

シクラメン(鉢)

全国シェア 14.4%

あさり類

全国シェア 30.0%

しそ

全国シェア 55.9%

いちじく

全国シェア 29.9%

貿易

名古屋港

■資料：(社)日本港湾協会「数字でみる港湾2008」

港湾別総貿易額(輸出+輸入)

7年連続全国1位

16兆7,500億円

三河港

■資料：豊橋税関支署「平成19年分三河港貿易概況(速報)」

輸入自動車の台数及び金額

15年連続全国1位

台数/114,334台 金額/3,487億円



高速道路・自動車道

主要JR線・JR新幹線

労働

有効求人倍率

1.95倍

人口

人口に占める外国人登録者数の割合

3.02%(人数 22万2千人)

大名

江戸期大名の約7割が愛知にゆかりあり

■資料：愛知県「武将観光パンフレット」

飛躍のために

一歩踏み出す



愛知県は、モノづくり産業の世界的な集積地であるとともに、全国有数の農業県でもあるなど、県内各地域で、特色を生かし地域づくりの取り組みが進められ、これまで県主体として高い活力を維持してきました。この愛知の活力を維持し、さらに飛躍・発展させていくため、今、県内のさまざまな分野で新しい一歩を踏み出す取り組みが行われていますが、本誌ではそのいくつかをご紹介します。陶磁器産地における若手有志による新感覚の製品開発、農業総合試験場における新しい系統豚づくり、「エコモビリティライフ」という環境に配慮した交通手段の利用を広めていく取り組みなど、愛知での新しい動きをご覧ください。

また、2010年に向けて本県が重点的に進めている4つのプロジェクト、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」、次世代産業創出を目指す「知の拠点」づくり、及び愛・地球博記念公園「アイデアのひろば」についても合わせてご紹介しました。

本誌を多くの方にご覧いただき、愛知の新しい魅力やさまざまな取り組みを知っていただければ幸いです。

愛知県知事

神田 嘉幸